

令和3年度 柏崎・刈羽 ACP プロジェクト報告

*** あなたが望む最期について話してみませんか ***

問い合わせ 柏崎市刈羽郡医師会在宅医療推進センター

TEL 0257 (41) 6045 FAX 0257 (23) 7873

あなた自身が日頃大切にしていることや、どこでどのような医療やケアを望むかを、周囲の信頼できる人たちと前もって繰り返し話し合い、共有する取り組みのことを『ACP（人生会議）』といいます。

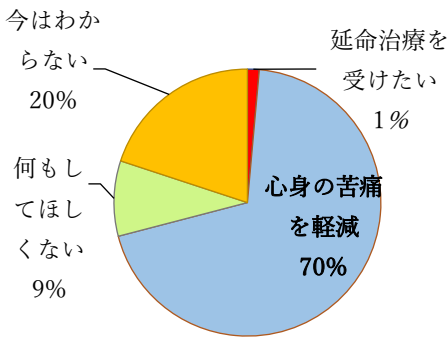
ACP 周知活動として医療機関や調剤薬局に来院した方に「人生最期の生き方」についてアンケート調査を行い、また、講演会を開催しました。



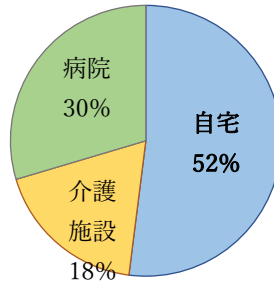
アンケート調査の結果

令和3年7月～8月に実施 回答者 378名

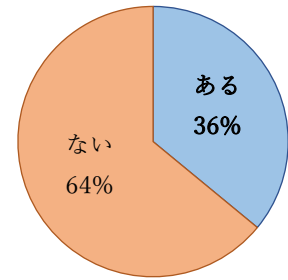
① 最期の時が近づいたらどのようにしたいか



② 最期をどこで過ごしたいか



③ ACPについて話し合ったことがあるか



半数以上の方が、「延命治療より心身の苦痛を軽減してほしい、最期は自宅で過ごしたい」という結果でした。しかし、6割以上の方が「自身の最期について話し合ったことがない」と回答しています。

もしもの時、ご自身で意思決定ができない場合があります。家族や信頼できる方に、「どのような医療を望むのか、どのように過ごしたいか」等をあらかじめ伝え、共有することがとても大切です。

一度まわりの方と話してみてもいいのではないでしょうか。

講演会

令和3年7月3日に、社会学者の上野千鶴子氏を講師に迎え「いつか一人になる覚悟を持って自分らしく生きる」をテーマに講演会を開催しました。老後のひとり暮らしのコツ、在宅終末期ケア、地域の支えあいの大切さ等、身近な興味深い内容に、20代から90代の幅広い年代の参加を頂きました。

講演終了後の意見交換やアンケートでは、「最期は病院か施設と思っていたが在宅が選択肢にあることを知った。柏崎では可能か」「実際訪問看護で支援した」「ACPは話し合いの過程が大事」「今迄タブー視していたが親の気持ちを聞いてみたい」「認知症の母を責めてはならない」「地域で何ができるか考えたい」等々、前向きな意見が多数寄せられました。

最後に高木医師会長から会場に向け、「ACPを否定的に捉えないで欲しい」とメッセージがあり、講師も「縁起でもない話ではなく、日頃からオープンなコミュニケーションが大事」と共感を示されました。



*** ACP（人生会議）はあなた自身の「生きる」を支えます ***